

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任
水野 喜代治

教え NO10

私は昭和30年代の生まれですので、私の中学生時代は今から五十年も前のことになってしまいました。私が小学生の頃に話した、おじいさんやおばあさんの中には明治生まれの人も多くいました。私の祖母も明治生まれで、よく日露戦争の話聞かされました。祖母は「卑怯なまねはしてはいけません。」とよく言っていました。こずるい生き方や卑しい考えが大嫌いでした。それらは明治の人が生きていく上での大切な価値観だったのだと思います。その時代によって何を大切に生活しているのか、価値観が異なります。時代が変わってもその時の人達の価値観から大切なことを学べることは多いと思います。

私は、昭和3年生まれ之母に育てられました。母が私に話してくれたことは、今でも私の心の中にたくさん残っています。その中の一つの「おせんべい」の話を紹介したいと思います。

私の小学校時代は、まだ太平洋戦争のひずみが完全になくなっていなく、仕事もできず、家もなく、家族とも別れ、他人から食べ物を恵んでもらって生活している人がいました。服は破れて、髪も髭も伸び放題で一目見たら物乞いをして生活している人だとわかりました。

そんな各地をさまよってる物乞いをしている人に、ある男の子が自分が食べていた「おせんべい」を半分に割って恵んであげたそうです。物乞いをしていた人は、男の子に頭を下げて、立ち去りました。それを見ていた、男の子の母親がすごい勢いで男の子を叱ったそうです。

このような内容の話を小学生の私に、母が話してくれました。話が終わった後に、「喜代治に聞くけど、どうして、その母親は、男の子がおせんべいを物乞いをしていた人にあげたのを見て叱ったと思う？」と私に問いかけてきました。私は、どうしてだろうと真剣に考えて「不潔な格好で、物乞いをする人とかかわったから…、どこの誰だか知らない物乞いをする人に声をかけたり、物をあげたりしたから…お母さんが怒ったのだと思う。」と答えました。すると、母は少し考えて、「違うよ。そういうことで叱ったのではないのよ。」と私に言ってきました。

「お母ちゃんは、喜代治には叱ったお母さんの気持ちがわかるような人になってほしいよ。」と私を見つめて言いました。私は、一生懸命に考えましたが、答えを出すことができませんでした。母が、私に優しく答えを教えてくださいました。それを聞いた私は、とても大事なことだなど感心しました。この答えは、私の心の中でいつまでも大事にしなければと思いました。

皆さんは、私の母の言ったことがわかりますか？わかった人は私に答えを言うてみてください。また、お家の方と一緒に考えてみてください。昭和育ちのお母さんはすぐに答えを教えてくださいたいと思いますよ。